





大つき 秋の  
まき 障子の  
より 翳る 醜  
ま とうろ され  
か の 障子の  
まき なみ の 交  
か の まき なみ  
まき なみ の 交

まき なみ の 交  
まき なみ の 交  
まき なみ の 交  
まき なみ の 交  
まき なみ の 交  
まき なみ の 交

秋の 障子の  
初め 障子の  
初め 障子の  
初め 障子の

おとん

おとん  
おとん  
おとん  
おとん  
おとん  
おとん

大つき

大つき



つなき  
 只今深ききりも  
 おまへに  
 我が家の後娘の  
 御入道さん  
 おまへに  
 なるが月曜  
 あるは中村梅の  
 仲るのお供のりん  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに

このつなき  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに



つなき  
 只今深ききりも  
 おまへに  
 我が家の後娘の  
 御入道さん  
 おまへに  
 なるが月曜  
 あるは中村梅の  
 仲るのお供のりん  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに

松五郎  
 寺三郎  
 このつなき  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに  
 おまへに







此の世に生るるものも  
 皆て無常なるものなり  
 故に生死を断ずるは  
 修行の要なり  
 修行の要は  
 戒定慧の三つなり  
 戒は心の乱れを  
 止むるに用ひ  
 定は心の静かに  
 するに用ひ  
 慧は心の明かに  
 するに用ひ  
 此の三つを  
 修行の要とす  
 修行の要は  
 戒定慧の三つなり  
 戒は心の乱れを  
 止むるに用ひ  
 定は心の静かに  
 するに用ひ  
 慧は心の明かに  
 するに用ひ  
 此の三つを  
 修行の要とす



修行の要は  
 戒定慧の三つなり  
 戒は心の乱れを  
 止むるに用ひ  
 定は心の静かに  
 するに用ひ  
 慧は心の明かに  
 するに用ひ



修行の要は  
 戒定慧の三つなり  
 戒は心の乱れを  
 止むるに用ひ  
 定は心の静かに  
 するに用ひ  
 慧は心の明かに  
 するに用ひ  
 此の三つを  
 修行の要とす  
 修行の要は  
 戒定慧の三つなり  
 戒は心の乱れを  
 止むるに用ひ  
 定は心の静かに  
 するに用ひ  
 慧は心の明かに  
 するに用ひ

修行の要は  
 戒定慧の三つなり  
 戒は心の乱れを  
 止むるに用ひ  
 定は心の静かに  
 するに用ひ  
 慧は心の明かに  
 するに用ひ

幸ひお初めをなさる多分とあり  
 播磨とあるふも別代  
 源氏素子とあり死に逢はぬ  
 梅子送つての問者死に逢はぬ  
 幸ひお初めをなさる多分とあり



幸ひお初めをなさる多分とあり  
 播磨とあるふも別代  
 源氏素子とあり死に逢はぬ  
 梅子送つての問者死に逢はぬ  
 幸ひお初めをなさる多分とあり



幸ひお初めをなさる多分とあり  
 播磨とあるふも別代  
 源氏素子とあり死に逢はぬ  
 梅子送つての問者死に逢はぬ  
 幸ひお初めをなさる多分とあり



大兵工

多かた...  
此...  
...  
...

...  
...  
...



三郎

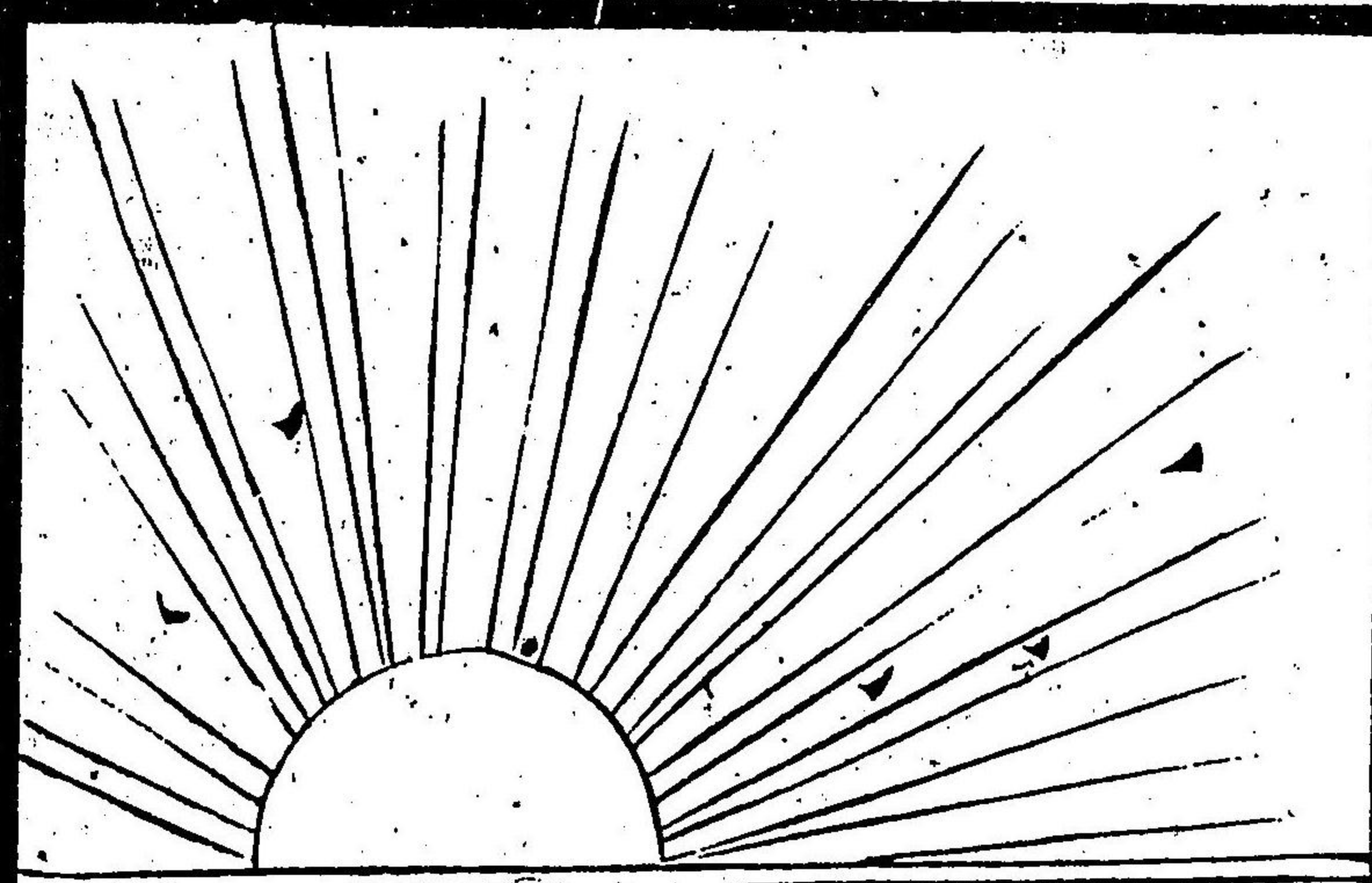
...  
...  
...  
...

...  
...  
...









ついで一巻は分り味

のまじり

しくお留り

成りたる

十五

のまじり

雨

ある補

あつみの

死

あつみの

亡

ま

の

死

神

死

あ

目

々

御 明治 本所緑丁四丁目  
十五年 五十二番地  
六月 編輯兼  
廿六日 出版人 荒川吉五郎

定價六圓

